ISSN 1880-8395

東京学芸大学附属図書館報

ライぶらり

TOKYO GAKUGEI UNIVERSITY LIBRARY NEWS

論文執筆応援号

論文は足で書こう

大石　学

卒業論文、修士論文、共同研究などの中間報告のさい、私はレジュメの冒頭部分に、活動記録を書くよう指導している。「学芸大近世史レジュメ」ともいうべきスタイルである。

記述は、「5月18日、埼玉県立文書館で史料調査」「1月、川崎市立公文書館へ行く」というような形式である。なかには、「5月19日、国文学研究資料館史料館へ行く、道に迷う」「6月8～9日、山口県立文書館で調査→撮影失敗、文字が読めない」、「鳥取県立博物館にて『江戸御留守居日記』を大量に複写←デジカメ壊れる（ものは大切に）」「5月、宗家鍵屋（そうけかぎや）15代の方と電話でお話→鍵屋史料はない!、幕府側の視点にしよう…」「4月、内閣文庫にて史料探し→ない!」、など苦労も見える。「10月、卒論指導、大目玉くらう」、「11月、第3回中間報告、先生に叱責を受け、ようやく自覚。そしてこの頃から先生の夢にうなされる」など悲惨な記事もある。「10月、中学実習、イラクの自衛隊派遣について考える日々、卒論は進まず」、「11月17日、行き詰まり苦しむ。卒論と人生に悩み、現実逃避。先生・先輩から『視野を広く!!』と言われ、我武者羅に動き出す」などの記事もある。

活動記録は、わずかな字数・行数ではあるが、一生懸命行った調査の成果や思いを記録化し、公開する場である。

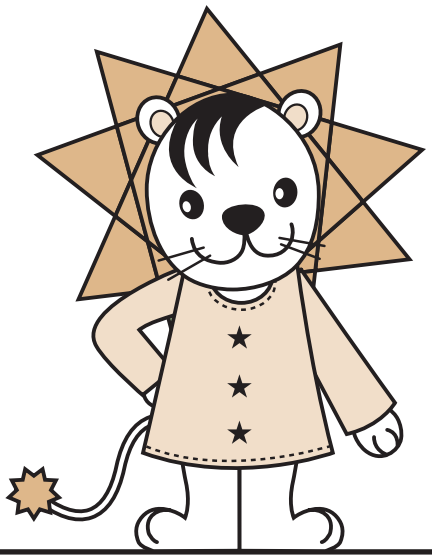
自分の研究活動を記録化・客観化することは、論文を作成する上で、とても重要なことである。指導・評価する側にとっては、研究の軌跡を見ることになる。

報告のさいには、調査先の建物のようす、古文書の出納方法、史料目録の特徴、閲覧室の机の配置、さらには学芸員の名前まで質問されるので、「カラ調査」や「アリバイ作り」はできない。活動記録が十分でない場合は、たとえ一見いい報告であっても、「カミナリ」が落ちる。

これは、私がすべての授業で出席をとり、試験だけではなく、出席状況を参考に評価する方法と通ずる。すなわち、授業をサボって試験だけいい点数を取ることは認めず、逆にまじめに出席していれば、たまたま試験が悪くてもそれなりに評価したいという姿勢である。

特に教育学部の学生には、こうした姿勢が大切なよう

〈次頁へつづく〉



［特集］論文執筆

◆論文は足で書こう（大石学）　1～2
◆外国語である日本語で論文を書くということ（谷部弘子）　2～3
◆図書館は論文の執筆を応援します　3～5
◆国立国会図書館・都立中央図書館利用術（苫米地伸/飯塚希世）　6
◆自著を語る（岸学/橋本創一）　7
◆ライブラリー通信　8
◆図書館ホームページおすすめコンテンツ
「双六コレクションデータベース」　8

Vol.35 [No.3] 2006.10

に思われる。授業に真面目に参加しても、思うように成果を出せない児童や生徒がいる一方で、それほど努力せずに試験などでいい結果を出す児童や生徒もいる。教員は、彼らが日頃一生懸命取り組む姿勢を、まず見つめ評価する必要がある。

もちろん、このことは社会人一般にもあてはまる。ともすると、成果主義、結果主義に陥りがちな現代社会であるが、結果には直接結びつかないような、見えない所での努力や苦労を理解し評価することが、社会全体で必要なように思う。

IT化の進展は、検索やデータ作成の効率を上げた。その結果、調査時間や研究時間は大幅に短縮している。しかし、一方で、無駄・無意味な時間が増加したのでは意味がない。この時間を有効に生かして欲しい。

私は卒業論文のテーマは、できるだけ自分の出身地に関わるものを選ぶよう指導している。これは、学生たちが将来、教員として、あるいは社会人として出身地に戻るさいに、大学での研究体験を教育現場や地域社会に還元してほしいという願いからである。この結果、研究室所属の学生や大学院生の多くは、卒業論文や修士論文の作成のために、時間を作っては出身地を始め各地に、何度も調査に出かけることになる。

彼らは、たびたび調査先から電話をよこす。一人で調査に出かけるのは、やはり不安なのか、あるいは自分の苦労を知ってもらいたいのかも知れない。

もちろん私は、こうした電話はとても嬉しい。そのさい電話口で、「手土産を持っていくこと」「東京からはるばる来たことを強調すること」「卒論や修論のテーマをしっかり伝えること」「何度も調査に行くことは難しいので、史料は必要部分だけではなく、できるだけ一冊すべて撮影すること」「時間がなければ費用はあとから考えることにして、倹約せずに業者にどんどん撮影を依頼すること」「昼食を抜いてでも撮影時間を確保すること」「図書館、博物館、文書館の担当者に史料に関係する研究論文なども尋ねること」、最後は「夜は飲みすぎないこと」まで、こまごま注意する。

効率化によって余った時間は、図書館でも有効に使ってほしい。たとえば、書名、著者名、事項を検索して、必要な本を見つけ、必要な部分をコピーして事足れりとしてはいけない。書庫や書棚に足を運び、検索した本の上下・左右の本の背表紙を見てみよう。全集の一冊であったら、全集全体を眺めてみよう。思わぬ発見や、豊かな関連知識が得られるはずである。

さて、近年の教育行政は「学校嫌い」や「学校離れ」といった問題に対して、「ゆとり」や「週休二日制」など、児童・生徒の負担を軽減する方向で対応しようとしてきた。

しかし、学校の役割に、個人の成長・社会の発展へ向けての知識や技術の伝達があり、多くの時間を授業が占めることを考えると、負担軽減の政策の効果はあまり期待できない。むしろ、授業を有効に利用して、児童・生徒に、勉強の楽しさや発見の喜びを伝える方が重要なのではないか、と思う。

しかし、そのためには、教師自身が勉強の楽しさを知っていなければならない。勉強の楽しさを知らない教師が、それらを伝えることはできないからである。学生諸君には、授業でのレポート、ゼミナールの報告、卒業論文、修士論文の作成など、さまざまな機会に、能率・効率だけでなく、手間ひまをかけて（手足を使って）勉強することの楽しさ・素敵さを是非体得して欲しい。そして、専門性を大切にする東京学芸大学の卒業生として、その貴重な体験を児童・生徒に伝えてほしいと思う。

（おおいし・まなぶ　人文社会科学系教授）

◇◇◇

ISSN 1880-8395

級段階の日本語教材には、レポートや論文の書き方に特化したものもあり、書き言葉に特有の語彙・表現や文章の構成などを学習するが、各専門分野での学術論文には、よく用いられる特定の文末表現がある。例えば、工学系の論文では、「(～は) ～と考えられる」という表現が判断表現の半数以上を占めているという。可能表現とも自発表現ともとれることが多用につながるようだ。このほか、「認められる／みられる／思われる／言える」など帰結をあらわす表現に「-レル・ラレル」が活躍する。「先生にほめられた」といった直接受け身の文からスタートした留学生にとって、こうした表現を自在に運用できるようになるのは容易でない。そもそも、客観性が重視される学術論文でなぜこのような表現が好まれるのか、その論理構造がなかなか理解されない。とにかくたくさん論 文を読みなさい、というものの、外国語である日本語で論文を書くということは、論理的な思考のあり方そのものを学んでいく過程であり、日本語学習の集大成と言える場なのかもしれない。

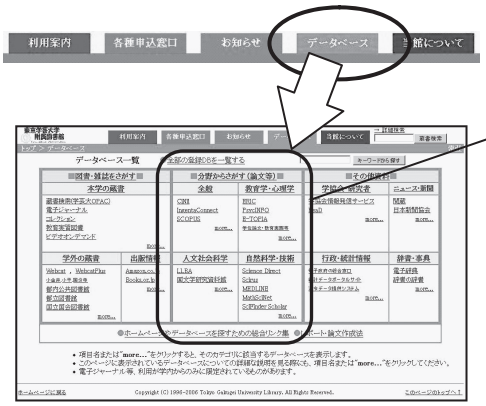
論文の最終提出にあたっては、相当の日本語力がある学生でもネイティブ・チェックが欠かせない。留学生センターでは、留学生の研究支援の一環として、毎年12月から1月にかけて「論文添削制度」を実施している。これは、大学側が謝金を負担し、論文の日本語添削をしてくれる日本人学生を紹介するもので、毎年30名前後が利用している。本来ならば、同じ専攻、同じ研究分野の学生に見てもらうのが一番良いのだが、身近に適当な日本語母語話者がいない、お互いに論文作成に忙しい時期に友人には頼みにくい、ということもあるだろう。制度を大いに活用してもらいたい。

さて先日、中国の大学で日本語を専攻する学生の卒業論文コンクールの受賞論文が発表された。日本のNPO法人と中国側の共催で6年前より行なわれているものだが、最優秀の受賞論文については、指導教員にも最優秀論文指導賞が授与される。母国とは異なる指導教員との関係や指導の方法について戸惑いを感じる留学生がいる、その背景の一端が窺われる。

（やべ・ひろこ　留学生センター教授）

◇◇◇

図書館ホームページの**「データベース一覧ページ」**では、学芸大学キャンパス内から使えるデータベースを「こういう情報をさがすならこれ」という形でリストアップしています。



中央の「分野から探す(論文等)」のところには、各分野の雑誌論文を探すのに便利なデータベースを載せています。
欲しい雑誌論文はなんという雑誌の何巻何号の何ページに載っているのでしょうか？
それとも探しているのは図書でしょうか……

まずは学芸大図書館にあるか？

読みたい論文が見つかったら

どこにあるか探そう

主に左側の「図書・雑誌をさがす」の部分のデータベースを使います。論文名ではなく、載っている**「雑誌名」で探してください。**

行き詰ったら……聞いてみよう！

「レファレンス・サービス」を知っていますか?

図書館1階サービスカウンターでは，調べ物の相談にも応じています。気軽にお尋ねください。

他の図書館を探そう

データベース一覧の右側の下側「学外の所蔵」にあるデータベースで探せます。

Webcat Plus (http://webcatplus.nii.ac.jp
・連想検索装備。特定の図書を探すには、
が便利。
・全国のどの大学図書館で持っているか分

他の大学
コピー

Web で雑誌論文が読める— 電子ジャーナルリスト

(EBSCO AtoZ， http://atoz.ebsco.com/home.asp?id=tgul)

電子ジャーナルは Web 上で本文が読める雑誌です。
このリストは学芸大キャンパス内から使える電子ジャーナルのタイトルのアルファベット順リストです(雑誌のタイトル中の単語で検索もできます)。現在では外国雑誌が中心です。年代によっては見られないものもありますのでご注意ください。

長期サービス停止時対策 !!

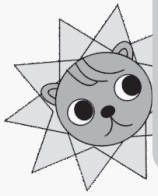
他の機関が提供している(＝で囲まれた) ものは、図書館のコンピュータが止まっていても使えます。工事やシステムメンテナンスで、ホームページが使えない時に備えて、直接リンクを張っておきましょう。

ILL

○ 書誌事
できる
○ 資料入
てくだ
○ 要実費

電子ジャーナル

電子ジャーナルは各出版社のページで公開されています。出版社が分かる場合は、直接出版社のページで探すとよいでしょう。



Web窓口 ILL の手続きに

論文執筆お役立ち情報

論文の書き方についての図書

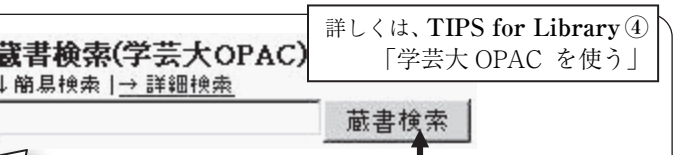
レポートや卒論執筆に参考になる図書を、学芸大学図書館でも多数所蔵しています。
内容分野を特定していないものには「８１６．５」という分類番号がついていますが、特定分野についてのものはその分野の番号がついていますので、１箇所にまとめて配架されてはいません。
ですからまずは学芸大学ＯＰＡＣを検索してみましょう。
論文の書き方についての図書には**「論文作法」**というキーワードがついていますので、「論文作法」と分野名や「卒論」などの単語を組み合わせて検索してみてください。

— インタ

インターネット上に
附属図書館では有益なサイトへのリ

附属図書館ホームページ ＞ E-T
情報の集め

ISSN 1880-8395



詳しくは、TIPS for Library ④
「学芸大 OPAC を使う」

雑誌名の中のキーワードを入れてクリック。

見つかった

見つからない

所在情報 ― 図書の場合

	巻号	刷年	所在	請求記号	資料ID	状況(返却予定日)	備考
1			図書館1F開架	816.5/ISH	10604708		

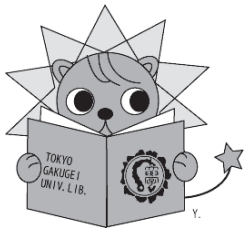
「所在」と「請求記号」をメモして書架へ。請求記号は背ラベルの番号です。同じ所在の中では、**図書は請求記号順でならんでいます。**同じテーマの本は近くに並んでいます。書架を眺めていると、思わぬ関連図書を発見できるかもしれません。

所在情報 ― 雑誌の場合

ここが「図書館逐次刊行物」なら図書館にあります。

	所在	所蔵年	所蔵巻号	備考
1	図書館逐次刊行物	1989-1991;1997-1997	6-7,8(1);13	

ここで、図書館に何年分があるか、何巻何号があるか分かります。



DL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム，http://opac.ndl.go.jp/）

p/）
一致検索
かります。

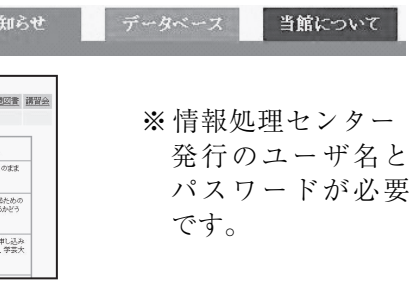
東京都立図書館蔵書検索
(http:// www.library.metro.tokyo.jp/)
・中央・日比谷・多摩の 3 つの都立図書館の蔵書が検索できます。

学等の図書館から文献の
などが取り寄せられます

(Inter Library Loan: 文献複写・図書借受)

事項(本や雑誌の題名、巻・号、記事名、ページ、発行年等)は
だけ詳しく書いてください。
入手までに時間がかかる場合があるので、余裕を持って依頼し
ください。
。申し込んだら**キャンセルはできません。**下記各種申込窓口にある文献複写・図書借受の注意事項を見てください。

は図書館のホームページで！



※情報処理センター発行のユーザ名とパスワードが必要です。

他の図書館を訪問・利用

訪問の作法

国会図書館や都立図書館等の公共図書館はそれぞれの利用法を確認するだけで大丈夫です。

他大学図書館等に訪問し、所蔵資料を閲覧・複写するためには、事前の問合せや閲覧依頼状（紹介状）が必要な場合があります。図書館１階サービスカウンターに申し込んでください。手続きがその日のうちに完了しない場合がほとんどですので、日にちに余裕を持って来てください。

くれぐれも**事前手続きなしに他大学（特に私立）に行かないようお願いします。**

詳しくは、TIPS for Library ⑨
「学外の図書館を使う」

※ 都立中央図書館・国立国会図書館については 次のページ にエッセイがあります。

講習会もやっています!

附属図書館では、みなさんの学習・研究活動を支援するための、文献の探し方や電子ジャーナル利用方法についての講習会もおこなっています。データベースの簡単な利用方法は随時サービスカウンターでご案内していますが、ぜひ講習会にもご参加ください。

講習会の案内は図書館内にポスター掲示もしていますが、詳しくはホームページでおこなっています。

http://library.u-gakugei.ac.jp/seminar/seminar.html
をご確認ください。

ターネットリンク集 ―

も論文執筆に役立つ情報があります。
ンク集を作成していますので、どうぞご覧ください。

TOPIA＞ パスファインダー＞レファレンスツール＞
方～まとめ方 ＞ レポート・論文作成法

essay

●国立国会図書館・都立中央図書館利用術●

NDLへ行こう

●苫米地　伸

「さて、今回の課題は、『竹中労』という人物の著作についてです」。こんな課題を出されたなら、あなたはどのような行動をとりますか？　いまや、インターネット全盛の時代。インターネットへアクセスし、「竹中労」と入力して検索する？　あるいは、本の探し方を心得ている人なら、webcatにアクセスし、竹中労の著作が学芸大の図書館にあるかどうか、そして他の図書館のどこに所蔵されているかを調べる人もいるでしょう。ここで、この文章を読んでいる方は、実際にwebcatにアクセスし、著者名の欄に「竹中労」と入力してみて下さい。何冊かの書名の中に『自由への証言』という本はあるでしょうか？　この本も間違いなく、竹中労の著作物です。しかし、webcatでは表示されません。ということは、この段階で、彼の著作物をさがすのやめてしまったなら、それは十分な文献調査であるとは言えないことになります。ちなみにamazonで調べても、この本は絶版です。つまり、先ほどの本は、あるのはわかっているのに、私たちが容易に手に取ってみることのできない本なのです。

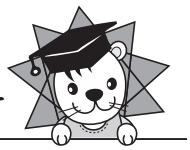
ところが、このような絶版の本でも、ほぼ必ず手に取ってみることのできる図書館があります。それが国立国会図書館です。国立国会図書館には、納本制度によって、日本国内で出版された書物が原則として保管されます。ということは、絶版の本も所蔵されているわけです。また、書店では販売されない図書（一般の会社の社史、政府刊行物など）も所蔵されていたりします。

さらに、週刊誌、月刊誌を問わず、一般的な雑誌も、閲覧することが可能です。都立中央図書館でも雑誌を閲覧することは可能ですが、成人向け雑誌やマンガ本などは所蔵されていません。しかしそれが国立国会図書館では閲覧可能なのです。いずれの図書館も閉架式ですが、著作権を侵害しない範囲で複写サービスも行われています。

これから学期末のレポートや、卒論などを執筆する方は是非、国立国会図書館や都立中央図書館に足を運んでみてください。きっと、あなたがこれまで手にすることのできなかった資料を入手することができ、もしかすると気付かなかった本に出会えるかもしれませんよ。

（とまべち・しん　人文社会科学系非常勤講師）

都立中央図書館に通ったワケ



●飯塚　希世

卒論・修論では太平洋戦争中の埼玉・東京の盲学校の実態調査を課題とし、修了後は続いて、東京の障害者教育の通史についての調査に関わった。

この間、都立中央図書館にしばらく通ったことがある。

都立図書館では、東京についての情報収集・提供を積極的に行なっている。都立図書館のうち都立中央図書館には、明治期以降に発行された東京という地域に関わりのある資料、東京都（府・市）・都内区市町村発行の行政資料などを所蔵している東京室がある。

教育史に関わる調査にあたって、例えば次のような一般に市販されていない資料がひとところに集められている（開架/閉架とも）ので、大変に利用しやすい。

1．東京都の障害児教育関連の実践記録等

教育実践記録などを、私家版・自費出版でまとめる教員は少なくない。こうした市販されていないものなど、他では利用しにくいものも多く所蔵している。

2．統計・行政資料

東京都や区市町村による各種調査統計、報告書、刊行物、東京都公報など。統計や報告書は、都庁内にある都民情報ルームで最近数年のものを公開しているが、東京室では過去さかのぼって一通り閲覧できる。

3．都内の学校の周年誌・記念誌、学校要覧、研究紀要、学校案内などの発行物

それぞれの学校の基本的な歴史や統計的な情報や教育活動の概要を知るために、各学校の発行物が参考になる。これらは、古いものになると各学校でも保管されていないことが多いが、東京室でかなり所蔵していた。

老婆心ながら、行けば何か見つかる、と考える人も少なくないようだ。が、常に混雑しているし、利用の目的を明確にしある程度の検討をつけるためにも、まず足元の図書館を活用しての基本的な調査は必須です。

（いいづか・きよ　附属図書館学術資料係）

ISSN 1880-8395

『SPSSによるやさしい統計学』

岸　学

岸学著
オーム社
2005年10月

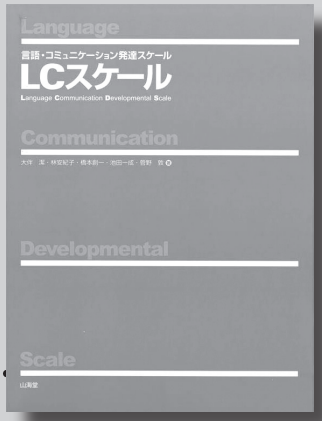
図書館１Ｆ開架
417/KIS

本書はデータ解析ソフトSPSSを使って統計計算のしかたを解説した、いわばマニュアル本である。本来、この類の書は、専門書ではないので「自著を語る」欄で紹介するにはふさわしくないと思われる。しかし、私の専門は「説明の認知心理学」であり、いかにわかりやすく伝えるかを研究しているので、その成果を試すのがマニュアル本や授業のわかりやすさなのである。

内容はデータ処理と記述・推測統計をSPSSを使って実施する手順の解説である。本書では、統計法自体の学習はできない。そうかといってSPSSに精通できるかというとそれも無理である。では、使えない本なのか？　そうではなく、初学者にとってはこのような本の存在が必要と考える。初学者の学習上の壁は、「自分がわからないのは統計法なのかSPSSなのか」がわからないことである。両者を橋渡しの情報を易しく伝えることが学習の援助になるのである。

（きし・まなぶ　総合教育科学系教授）

自著を語る



本書は、東京学芸大学教育実践研究支援センターの研究プロジェクトにより2005年作成された、0～6歳の乳幼児の言語コミュニケーション発達を基盤にしてつくられた検査法です。子どもの言語発達を評価する検査法が少ない中、我が国で最新の言語検査です。語彙、文法、語操作、コミュニケーションなどを精査し、言語コミュニケーション年齢と発達指数、下位領域の言語表出と言語理解、コミュニケーションにおいて発達段階（年齢）がわかります。また、言語コミュニケーション行動の発達上の長所や短所がわかり、障害や遅れのある人の言語発達支援や教育プログラムの立案に役立つ情報を得ることができます。本書には検査法マニュアル／検査絵図版／記録用紙の3点が入っています。

（はしもと・そういち　教育実践研究支援センター助教授）

橋本　創一

『言語・コミュニケーション発達スケール－LCスケール－』

大伴　潔、林安紀子、
橋本創一、池田一成、
菅野敦 著
山海堂
2005年7月

図書館１Ｆ開架
378/SAN

ライブラリー通信

アスベスト除去処理工事に伴う臨時休館のお知らせ

附属図書館天井の吹付け材にアスベスト含有のひる石が使われていることがわかりました。平成17年12月に閲覧室等の空気中浮遊物質について環境測定を実施した結果、特に有害物質は検出されず、安全性は確認されています。しかし、今後長期間の安全性を確保するため、全学的に実施されるアスベスト除去工事の一環として、図書館も平成18年1月から3月の間に除去工事を行うことになりました。

つきましては、大変ご不便をおかけしますが、安全性を確実に担保するため、工事期間中図書館を休館させていただきます。正確な工事日程につきましては、確定次第、図書館ホームページ等でお知らせいたします。

工事期間中は長期貸出などの措置を予定しております。こちらも詳細が決まり次第あわせてお知らせいたします。

図書館システムリプレイスによる一部サービス停止のお知らせ

図書館システムリプレイス（コンピュータの新機種への入れ替え作業）を3月に予定しております。この作業に伴い、2月から3月の間でホームページや蔵書検索（学芸大OPAC）等を停止させていただくことがあります。詳細な日程などは決まり次第、ホームページ等でお知らせいたします。

※ 図書館ホームページの「データベース一覧」で紹介しているデータベースのうち，図書館以外のサーバで運用されているサービスは，図書館のコンピュータが止まっていても利用できます。停止時に備えて，アドレスをブックマークなどに保存しておきましょう。

東京学芸大学附属図書館所蔵資料展
「江戸・明治の出世双六 ～上(あが)りにたくす夢～」

期　間：　平成18年11月1日（水）～11月6日（月）
　　平日　午前9時～午後5時（最終日は午後4時まで）
　　土・日・祝日　午前11時～午後5時
会　場：　附属図書館　1階閲覧室
■講演会　「明治の女性たち～一葉を中心として～」
　　講師　山田有策教授（本学日本語・日本文学研究講座）
　　日時　平成18年11月1日（水）午後2時30分～午後4時
　　会場　附属図書館3階　ＡＶホール
無　料（事前申込不要）

図書館ホームページおすすめコンテンツ

■ 双六コレクションデータベース

双六コレクションは、昭和60年度文部省配分の大型コレクション経費で購入した96枚の絵双六を中心に、東京学芸大学が所蔵する絵双六のコレクションです。

双六は歌舞伎、風俗・民俗、教育・子供、歴史、東海道、物産、戦争、世界、物語等多彩な内容をもち、遊びながら文字や言葉をおぼえられる、庶民のための教育資料の一つです。

このデータベースは、これらの資料を画像化し、一覧できるようにしたものです

［編集発行］東京学芸大学附属図書館
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1　TEL 042-329-7223 / FAX 042-329-7226
●URL http://library.u-gakugei.ac.jp/　●携帯版URL http://library.u-gakugei.ac.jp/i/

［表紙・キャラクターデザイン］美術・書道講座　正木賢一

再生紙70%を使用しています